



【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 統計表やグラフを見ると、「どの数字を見ればいいのか」が分からず手が止まる生徒
 - 「割合（％）が下がったから実額も減った」と思い込んで失点した経験がある生徒
 - 増加数と増加率の違い、複数項目の合算、時差や飛行時間の計算でミスが出やすい生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 統計資料を見たら、まず「単位」「分母・基準値」「割合か実数か」を確定し、資料の数値構造を客観的に把握できるようになる。
 2. 「割合の低下と実額の増加の乖離」をはじめ、概算計算（分母 × 割合）を用いて選択肢の正誤を正確に判定できるようになる。
 3. 増加実数と増加割合の峻別、複数項目の合算・比率化、条件制約からの極値推論を、余白での立式を通じて安定して解けるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、神奈川県が求める「定量処理の 4 大パターン」と確認手順を頭に入れる。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、余白に計算メモを残しながら解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン分析」と照らし合わせ、自分が「直感で選んでいなかったか」を検証する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従い、統計・数値資料問題が中心となる年度を演習する。

【冒頭 1 分要約：統計・数値資料問題の真実】

【結論】 神奈川県の世界地理で、統計は「暗記だけ」では解けない。

「一段加工する数学的処理」が必要である。

- ① グラフを見たら「分母・基準値」を囲む
割合（％）だけを見るな。全体総額（分母）が何倍に増減しているかを必ず確認せよ。
「割合が下がっても、分母が急増していれば実額は増える」。
 - ② 「増加実数」と「増加率（割合）」を混同しない
引き算（新しい値 － 古い値）で求めるのが「実数」。
割り算（増加数 ÷ 元の値）で求めるのが「増加割合（伸び率）」。
- 設問の主語を厳密に見分けよ。

③ 余白に「概算の計算メモ」を残す

精密な筆算は不要。「約 $160 \times 0.06 \div$ 約 9.6」のような粗い掛け算・足し算を
問題用紙の余白に必ず手書きし、数値を根拠に選択肢を絞り込め。

第1章：神奈川県統計問題は「知識暗記」ではなく「定量処理」だ

1. 15年連続（15/15年度・100%）で確認された「定量処理」

神奈川県公立高校入試の世界地理（問1）において、統計値、割合、経度、時刻などの数値情報に対し、計算・比較・合算・条件照合などの加工を加えて判断させる「定量処理」は、2012年度から2026年度までの15年間の全年度で確認されている。

問題で提示される数値資料の形式は多岐にわたる。

- 輸出入の総額と品目構成比を示した「貿易統計表・帯グラフ」（2012・2015・2018・2024・2025年）
- 各国の発電電力量や電源構成比を示した「エネルギー構成表」（2022年）
- 2時点間の拠点数や生産量の推移を示した「棒グラフ・比較表」（2019・2021年）
- 経度差から時差・所要時間を逆算・立式させる「時刻設定・略地図」（2014・2017年）
- 複数条件から論理的に成立する最小人数を導かせる「レポート文・極値推論」（2026年）

これらすべての問題に共通するのは、「与えられた数値をそのまま眺めるだけでは正解できず、一段以上の数学的加工を介在させて初めて正誤が確定する」という出題構造である。

第2章：重要な典型「割合と実額の乖離」を見抜く

神奈川県統計問題で特に注意したいのが、「割合の動き」と「実額（金額・数量）の動き」の違いである。

1. 基本原理：実額の算出式

$$\text{実額（金額・数量）} = \text{全体総額（分母）} \times \text{構成比（割合）}$$

この数式が意味するのは、**実額の増減は「分母の動き」と「割合の動き」の掛け合わせで決まる**ということである。

【典型パターン：分母急増による実額増加】（2012年アルゼンチン輸出統計）

- 輸出総額（分母）： 約 158 億ドル ——約 3.5 倍に急増——> 約 556 億ドル
- 肉類の構成比（割合）： 5.8% —————低下—————> 4.1%

[1994年の実額] 約 158 億ドル $\times 0.058 \div$ 約 9.2 億ドル

[2009年の実額] 約 556 億ドル $\times 0.041 \div$ 約 22.8 億ドル

⇒ 割合は「1.7 ポイント低下」したが、実額は「約 2.5 倍に増加」した。

2. 判定の鉄則

- 「割合が低下したから、輸出額も減少した」と直感で判断すると誤答になる。
- 帯グラフや円グラフを見たら、まず**グラフの外側に書かれている「総額（分母）」に丸をつけ、分母が拡大しているか縮小しているかを確認する。**